



Reference Turntable **Topas**
Tone arm **Onyx**



DE BAER

Reference Turntable Topas

PLAYERS FOR GENERATIONS

振動要因を極限まで抑えこむ革新のテクノロジー。

レコードの音溝に刻み込まれた音楽家の熱情。そのすべてを余さずトラッキングし、
確実に再現すべく、これまであまたのレコードプレイヤーが生み出されました。

しかし、2015年、スイスに誕生したDE BAER(ディ・ベア)の製品ほど
革新的なアプローチは、なかったのではないのでしょうか。

繊細な楽音信号を余すところなく抽出する。レコードプレイヤーがその使命を果たす上で
最も重要なのは、あらゆる種類の振動要因を徹底的に排除することです。

そのためにディ・ベアが導き出したソリューションは、“マグネット・フローティング”、
“ベアリング・デカップリング”といった独自の超精密テクノロジーでした。

レコードプレイヤーの新しい歴史が、ディ・ベア“Topas”(トパーズ)とともに始まります。



Topas 12/12

Reference Turntable Topas

PLAYERS FOR GENERATIONS

独創のイノベーションに基づく新時代のレコードプレイヤー。

■異種素材複合キャビネット構造

豊穡な音溝の情報を余すことなく抽出するために、トパーズでは、まずキャビネットの制振設計を徹底しました。

キャビネットのメインとなる素材は、厳選を重ねた御影石。美しいだけでなく、その重量と強靱な物性によって内外の振動要因をシャットアウトした上で、アルミニウム構造材との間にシリコンフィルムを挟む、3種の素材の複合によって、キャビネット全体の共振や振動を徹底的に排除しています。

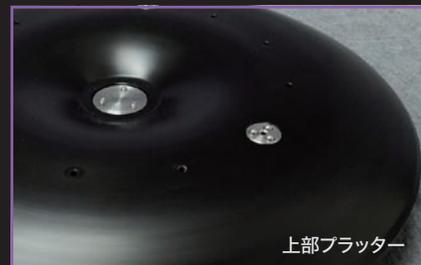
■点接触ダブルプラッター構造

プラッターは、インナープラッターとアウトプラッターから構成されます。アウトプラッターは、それぞれ厚みの異なる上部プラッターと下部プラッターの2層構造で、共振抑制の観点から、その素材にはPOM（ポリオキシメチレン）樹脂を採用しています。

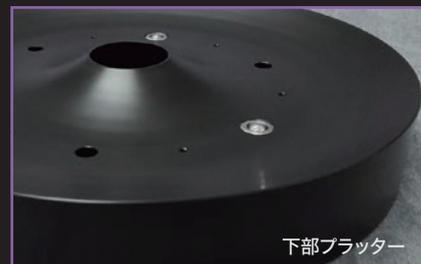
POMは耐衝撃性、耐摩耗性、長期にわたる寸法安定性など、優れた機械的特性をそなえた素材で、適度な内部損失による共振抑制が求められるプラッターには理想的な素材といえます。

上部プラッターは底面を凸型とし、すり鉢状の下部プラッター上面に結合する独自の構造を採用。しかも、ベアリングを介した点接触にて両プラッターを結合するという独自のテクニックを適用しています。

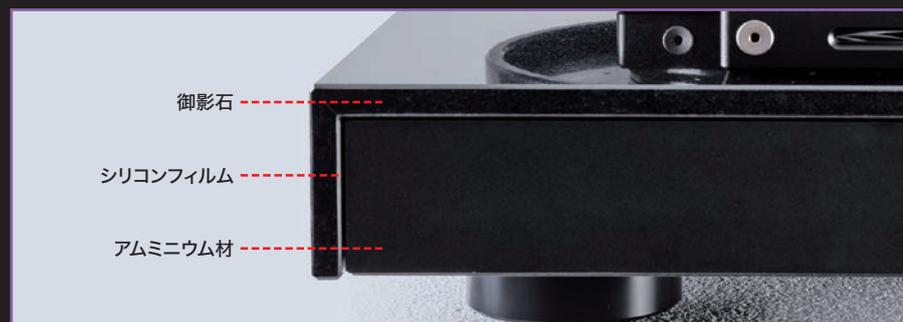
上部プラッター側の小型超硬質ボール状突起3個を、下部プラッター側の大型超硬質可動ボール1個で受ける仕組みを、プラッターの3ヶ所に設けており、接触部分を極限まで抑えています。プラッター回転に伴って発生しがちな、微小振動要因を極限まで排除し、楽音信号以外の要素をピックアップに伝えることがないよう、ディ・ベアが徹底研究の末に生み出した独創的な方式です。



上部プラッター



下部プラッター



御影石

シリコンフィルム

アルミニウム材



上部プラッター

下部プラッター



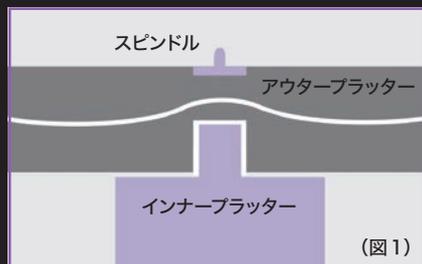
Topas 12/12

■ 斬新なシャフト制振設計

静粛かつ安定した回転性能の鍵を握る軸受け部は、耐摩耗性に優れた砲金製ベアリングを使用し、振動要素を吸収するオイルを充填した上で、強力なネオジウムマグネットの反発力によってプラッターをフロートさせ、シャーシと回転系のアイソレーションを図りました。しかも、スピンドルとシャフト（インナープラッター）を独立させ、1本の軸としない独自の設計によるデカップリングも採用（図1）。複合的な制振手法によって振動要因を排除する、ディ・ベアならではの発想です。

また、インナープラッターをベルト駆動するモータープーリーをオフセットしてマウントしたことで、プーリー回転時にベルトのテンションを適正に調整することが可能になり、常に最適な状態が保たれます。

インナープラッターの正確な回転を担うのは最新のDCサーボモーター。モーター動作中は、マイクロコンピューターが1回転ごとに約100回、回転変動の有無をモニタリングしており、モーターの性能を最大限に引き出して安定した回転を実現します。



プーリーマウントを回転させ、ベルトテンションを細かく調整することが可能。

■ アーム取り付け部の振動対策

ベアリングによって外部振動とのデカップリングを図る設計は、トーンアーム取り付けボード部にも及びます。

トーンアーム取り付けボード部には、アルマイト処理を施したアルミニウム材を使用、耐腐食性、耐摩耗性を確保した上で、シャーシからの振動要因がトーンアームに伝わらないよう、



アウトタープラッターと同様の超硬質ボールの組み合わせによるデカップリング方式を適用しました。ボード側に3個の小型ボール状突起を配置、シャーシ側に大型可動ボール1個を配置することで、接触面積を最小化しています。



■ 自在のダブルアーム仕様

“Topas 12/12”、“Topas 12/09”は、トーンアーム2本が取り付け可能なダブルアーム仕様。取り付けボードは、いずれも可動式となっており、ショートアームからロングアームまで様々なタイプのトーンアームに対応します。また、シングルアーム仕様モデル“Topas 09”、もラインナップしています。

■ POM材フットによる3点支持

設置面からの振動をシャットアウトするフット部も、レコードプレイヤーにとって重要なパーツです。トパーズでは、全体を3点支持とすることで設置面との接触面積を抑えた上で、フットに内部損失の大きなPOM材を使用。音質に大きく影響する外部振動を徹底排除しています。

フットはいずれもネジ式で、高さ調整も容易。ターンテーブルを常に水平に保ちます。



33-1/3回転、45回転の2スピードを切り替えるロータリースイッチ。



POM材と金属の2層構造としたスタビライザー。450gの重量により、レコードをプラッターに密着させます。



Tone arm Onyx

DIFFERENT LISTENING

カートリッジの真価を引き出すために精度を極めたトーンアーム。

■他に類を見ないアームデザイン

クルト・ベアにとって、レコードプレイヤーと平行してトーンアームも設計開発することは自然な流れでした。レコードプレイヤーと、トーンアームの完成度、精度を等しく高いレベルにしなければ、彼が思い描くアナログ再生の次元に到達することはできなかったからです。したがって、レコードプレイヤー同様のイノベーションによってトーンアームの常識を覆すことも必然の結果でした。

常に革新を志向するベアの熱情が生み出した“Onyx”(オニキス)が果たしたイノベーション、それはまず他に類例のないアーム部の設計にあります。

アーム部は、軽量にして高強度、共鳴しにくいカーボンロッド3本で構成、適度なテンションを持たせた、きわめて高感度な設計になっています。

最小限の重量で最大限の安定性を確保した上で、左右各チャンネルのケーブル用に2本を使用することでクロストークをシャットアウトし、完全なチャンネルセパレーションを実現する独自のデザインです。

また、ターンテーブル“Topas”同様、“Onyx”本体のシャフト下部にもマグネットによるフローティング機構を採用しています。



■高精度でスムーズなピボット

ピボット部も斬新な発想をふまえた設計になっています。まず水平・垂直方向にボールベアリングを組み込んだ上で、両方向をマグネット・フローティングとすることで、回転に伴うあらゆる振動・共振要因を徹底排除。摩擦を極限まで取り除くことによって、きわめてスムーズな動作を可能にしています。

また、マグネットが反発し合うことで、レコードをトレースする際にアームが常時セルフセンタリングされるため、カートリッジのトレーシング能力を最大限に引き出すことができます。

■画期的なVTA調整機構

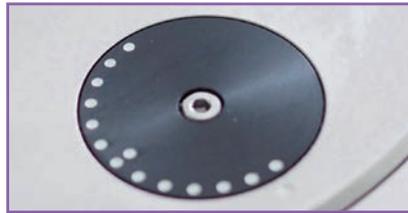
溝の情報を正確に抽出することは、理想的なアナログ再生の第一歩。そのため、“Onyx”は、レコードを演奏しながら再生音を確認してトーンアーム高を変えられる、独自の高精度VTA調整機構を標準搭載しました。

オイルダンブ方式ならではの滑らかな動きによって、きわめて繊細なスタイラス先端と音溝



間の設置角を、1目盛1mm・上下6mm範囲で精密に調整できます。

また、“Onyx”以外のトーンアームにも適用可能なため、理想のアナログシステムを妥協なく追求していただけます。



■使いやすいヘッドシェル設計

ヘッドシェルは、取り付け部を長穴とし、カートリッジに合わせて最適のオフセットアングルが設定可能。アジマス調整も容易で、お手持ちのカートリッジの真価をフルに引き出していただけます。

■独創的な調整機構

針圧調整は、カウンターウエイトによるスタティックバランス方式。カウンターウエイトは2基で、間にスプリングを設けることにより、精密な調整が可能になっています。

アンチスケーティングは、ダイヤルとトーンアーム内部に組み込んだマグネットの反発磁

力を利用して精度高い調整を可能にする、独自の機構になっています。

また、アームリフターはオイルダンブ式で、スムーズな上げ下ろしが可能です。



OPTION



WBT製RCAコネクターは、5PIN-PIN仕様へのご指定が可能。

About DE BAER



2015年、アナログオーディオの歴史が変わった。

■理想を着実に形にする歩み

ディ・ベアは、2015年、クルト・ベア氏によってスイスに設立されました。

ベアはスイスの家具メーカーで革新的な家具の設計・開発を手がけるデザイナーでしたが、一方で、アナログ再生の世界を愛する熱心なオーディオファイルでもありました。

家具デザインのかたわら、蓄積された知識と情熱を注ぎ込んで、自らの理想とするプレイヤーを製作していたベアは、2011年、無人航空機用の精密機器などを設計・製造するジェットマックス社のオーナーであるディーター・アルピサー氏と出会い、2013年に画期的なレコードプレイヤーを共同開発します。

2015年のミュンヘン・ハイエンドショウで発

表されたこのモデルが大きな話題となったことから、二人は商品化することを決定、ディ・ベアブランドを立ち上げました。

その後、ベアの音の理想にとってもう一つ重要な要素であるトーンアームを手がけるようになり、ブランドは本格的にスタート。ベアの妥協なき設計理念と、ジェットマックスの高精度なエンジニアリングとのコラボレーションによる、先進的な製品づくりの体制が確立したのです。ベアは今、自らの理想を形にするための研究開発を着実に進めています。



ディ・ベア製品は、一つひとつがクルト・ベア自身の手で組み上げられています。

Specifications

Topas

- 形式 アームレス・アナログターンテーブル
- 駆動形式 ベルトドライブ
- モーター マイコン制御DCサーボモーター
- 対応回転数 33-1/3、45rpm

Onyx

- 形式 スタティックバランス型
ストレート・トーンアーム
- ヘッドシェル 固定式
- 実効長(スピンドル中心～取り付け位置中心)
9インチ：213.35mm
12インチ：295.6mm
- 適合カートリッジ自重
9インチ：6~14g(延長シャフト装着にて=20g)
12インチ：6~14g(延長シャフト装着にて=23g)
- 重量
9インチ：640g
12インチ：720g
VTA調整機構アームボード：1,300g
- 付属品
スタイラス・セッティングツール



Topas 12/12

- 対応アーム：9～12インチ 2本
- 寸法：幅660×高さ240×奥行き512mm
- 重量：50kg



Topas 12/09

- 対応アーム：左=9～12インチ1本
右=9インチ 1本
- 寸法：幅546×高さ240×奥行き512mm
- 重量：43kg



Topas 09

- 対応アーム：左=9～12インチ1本
右=9インチ 1本
- 寸法：幅546×高さ240×奥行き418mm
- 重量：39kg

ArkGioia

株式会社アーク・ジョイア

〒112-0013 東京都文京区音羽1-1-7 正進社ホールディングスビル4階 03-6902-0480 www.arkgioia.com